

子宮鏡検査

<目的>

子宮内膜ポリープや粘膜下子宮筋腫などを評価することを目的とします。

<方法>

月経終了後から排卵までの期間に行います。

子宮鏡というカメラを子宮内に挿入します。

生理食塩水を注入することで子宮を拡張させ、子宮内を観察します。

<麻酔法>

無し

<危険性、合併症>

1. 出血：検査後に少量の出血を認めることがあります。
2. 感染：子宮内や腹腔への感染（子宮内膜炎、骨盤腹膜炎など）により発熱や腹痛等を認める可能性があります。抗生剤の投与や入院治療を要することがあります。
3. 疼痛：子宮内操作に伴い腹痛を起こすことがあります。
4. 迷走神経反射：疼痛により、気分不快や血圧低下を認めることがあります。

<その他>

- ・検査の周期は、月経開始から検査日まで必ず避妊してください。
- ・検査当日はシャワー浴のみとし、入浴は控えてください。
- ・子宮の形態などにより子宮鏡の挿入が困難な場合があります。
- ・事前に鎮痛剤を内服しておくことで、疼痛を軽減できることがあります。
- ・不妊症の原因となりうる子宮内膜ポリープや子宮筋腫を認めた場合には、後日、子宮鏡下手術を提案することがあります。

ご不明な点があればご遠慮なく医師・看護師にお尋ね下さい。

表参道 ART クリニック